



高島藤樹会

(題字は、竹脇雲卿先生によるものです)

発行
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1
藤樹書院・良知館内
電話・FAX 0740 (32) 4156
<http://takashima-tojukai.com/>

藤樹先生の教えを

実践する

地域・家庭・学校で

高島藤樹会 理事 地村 俊彦



一、藤樹先生の
教えから

中江藤樹先生

は、「人はだれでも「良知」という美しい心をもつて生まれており、この美しい心は、だれとでも仲よく親しみ合い、尊敬し合い認め合う心である」と説かれている。また、「ふだんの生活やまわりの人との交わりの中で、自ら五事を正すことが、すなわち良知をみがき良知に致る大切な道である。」とも説かれている。

この「美しい心」のベースは、幼児期・少年期に園・学校、家庭、地域の中で育まれるものである。私が勤務した青柳小学校での取組を振り返ると、学校だけでなく、家庭や地域の人たちによる子どもたちへの教えや温かい関わりが、美しい心「良知」を育てることにつながっていたと感じる。子どもたちは、家庭・地域の身近な大人とふれあい、知識・技能だけでなく礼儀や心がけなどを

教えていただくことで、学びがより一層広がり、深まっていく。身近な大人(学校・家庭・地域)と一緒に、子どもたちの学びと成長を支えていく取組は、子どもたちにとっても私たち大人にとっても、藤樹先生の教えを実践するよい機会である。

二、藤樹先生の教えを学び、実践する

(一) 地域の人たちとのふれあいから学ぶ

青柳小学校では、日常的に地域ボランティアの方に学習支援等でお世話になっている。子どもたちは、ボランティアの方に優しく声掛けしていただいたり、作業の手ほどきを受けたり、一緒に楽しく活動する中で感謝の気持ちや思いやりの気持ち、「がんばろう」という気持ちが高まる。ゲストティーチャーの授業では、講師の方の熱意や生き様に触れ、改めて自分の将来の目標や「志」を考へることもつながっている。

(二) 自分の長所を生かした目標を立てる

青柳小学校では、PTAが各家庭に呼びかけ、『長所の花をさかせよう』という活動に取り組んでいる。この取組は、家族みんなで子どもの

長所に目を向け、その長所を伸ばすために、「日常生活でがんばること」を親子で考えるというものである。家族ぐるみで子どもたちの長所に目を向け、良さを伸ばし、目標に向けたがんばりを応援するこの取組は、子どもたちの励みになるだけでなく、将来に向けての立志にもつながっている。また、保護者が、肯定的で温かい気持ちで子どもに接すれば、自分に自信を持ち、思いやりの深い子どもが育つことにもなる。藤樹先生の説かれる「愛敬」にも通じる実践である。

(三) 藤樹先生の生き方を学ぶ

高島藤樹会会報三五号でも紹介いただいたが、青柳小学校では、毎年十一月に「藤樹デー」を開催している。この行事には保護者や地域の関係者にも来校いただき、みんなで藤樹先生の教えを学ぶ一日となっている。藤樹先生に造詣が深い地域の方々を多数講師としてお招きし、学年ごとに藤樹先生の生き方や思想、藤樹先生ゆかりの史跡等について講話をしていただくコーナーもある。中江藤樹先生生誕の地ならではの取組である。



「ラム」：吉田公平先生

(東洋大学名誉教授)

なぜ中江藤樹は今でも 心酔者に恵まれているのか



中江藤樹は第二啓蒙期（江戸時代）の初期の旗手であった。とはいえ、なにせ四百余年前の

人である。この第二啓蒙期の江戸時代に活躍した人は数多く居る。研究者が学問的に興味を抱いて探求している人物は数多く居る。例えば大阪市の大塩事件研究会。しかし、いかに生きるかに関心を持つ人達が組織を作って持続的に学び続けられているのは中江藤樹だけである。

中江藤樹の誕生地・晩年の生活地である滋賀県の高島藤樹会。中江藤樹が陽明学に開眼した愛媛県の大洲藤樹会。中江藤樹の心学を最も熱心に長期に亘って学び続けた福島県の会津喜多方の藤の木会。中江藤樹は教祖ではない。学んでいる人々は信徒ではない。中江藤樹の遺著は聖書ではない。なのになぜ人々は中江藤樹の生き方考え方に魅了される

のか。不思議なことである。明治の作家である夏目漱石も心学者であった。彼が今日もなお広く読まれているのと似ている。漱石の作品の主人公は東京帝国大学の卒業生である。それでいて国が奨める立身出世主義を捨てて最愛の女性と結婚して社会の片隅でつましく生活する。その葛藤を描いている。近代の市民主義を先取りした作品であった。今の読者はそこに共感を覚えるのである。中江藤樹の教えは、善なる本性を信じて自力をそれを実現発揮することを促している。彼の祈りは神に救済を願う祈りではない。そうではなくて、トコトン本性を発揮することに努力することを誓う、覚悟の祈りであった。救済者をあてにしない、また同調者を頼まない、一人信者の自力救済の信念である。とはいえ、中江藤樹は仲間にも恵まれた。彼らは中江藤樹の言葉に励まされ、師の生き方を見て吾が身を省みた。喘息の持病に苦しみながらも、親身に教導する姿はあまりにも痛ましい。しかし、真摯な生き方、門弟に対する姿勢は一貫していた。中江藤樹の若い時の著作には既存の書物を素材にした編纂ものがあるが、中江藤樹の本領が発揮されていない。やはり、中江藤樹の豊かさは晩年にある。享年

四十一歳は今日の長寿社会に比べるあまりに早すぎる逝去であった。しかし、江戸時代の平均寿命は三十五歳くらいであったから、それよりもちよつと長生きしたことになる。しかし、やはり早すぎた。晩年の所得をしめす断簡が残されているが、今少しの年限に恵まれて、所謂「藤樹学」を熟成させて欲しかった。中江藤樹が仕残した「藤樹学」を熟成発展させたのは藤樹後学の人々である。それはいまは『中江藤樹心学派全集』（小山國三・吉田公平共編 研文出版）に収録されている。是非ともお読みください。

吉田公平先生のご紹介

【経歴】

東北大学文学部・大学院 中国学専攻。九州大学助手、東北大学助教授、広島大学教授を歴任。東洋大学文学部教授、東洋大学名誉教授（現在に至る）。現在、東京で、「心の学び 吉田塾」を月一回開催。

【専門分野および研究テーマ】
中国哲学、日本思想史。最近は、江戸時代、明治・大正時代の心学・陽明学の研究が主題。

【所属学会】

日本中国学会、日本思想史学会、東北中国学会、白山中国学会、東洋古典学研究会

【主要著書・論文】

- ①『陸象山と王陽明』（研文出版）、
- ②『陽明学が問いかけられるもの』（同上）、
- ③『日本における陽明学』（ペリカン社）、
- ④『中江藤樹心学派全集』（研文出版）、
- ⑤『中江藤樹の心学と会津・喜多方』（同上）、他多数。

ひじりの声 上田 藤市郎

日本や世界の政治状況の変化について考えさせられることがある。

いくつかの独裁国家を除いて、市民の自由意志による選挙で代表が選出される国々では多数決の結果を尊重し、国政が委ねられる。数年後の行政の成果を反映して再度民意が表明されるのが民主主義の原則である。国民がどのように変化していくかは、その国の経済的社会的な課題に大きく左右される。

人間は、必ずしも性善説のみで行動するものではなく、と言うと藤樹先生を崇拜される諸兄には申し上げにくいのであるが、「衣食足りて則ち榮辱を知る」が示すように、人は日々の収入、仕事、健康、安全などが保障されてはじめて良知に致るわけである。常軌を逸した若者が高齢者を餌食にして悪行に走る事件を聞くと、我が国の政治が社会の課題を担い切れていない気がする。これは、教育や道徳で解決できる問題ではない。

豊かな心は、善行のお話を聞けば育つのではなく、多少とも、金銭的なゆとりのある生活によって育まれるのである。教育関係者よりも、政治にかかわる人々が、我が国の社会状況を一層深く洞察して、恵まれない人々の救済に力を傾注することが、明るい社会、我が国の未来を創ることになる。これは、非正規雇用者の数や賃金格差の課題を見ても明らかである。格差の少ない、経済的な基盤の安定が市民の良識を高めるのである。

藤樹人間学塾： 藤樹思想を学び考え実践する

塾長 田中 清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生関連の著書を中心に思想を学ぶとともに自らの頭で考え、時事問題と組み合わせて皆で議論しながら思考を深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月開催しています。本稿ではその概要をお伝えいたします。

■九月、安曇川公民館で第百五十三回人間学塾を開きました。大阪から一名、京都から一名、大津から一名を入れて七名でした。

●テキスト

『中江藤樹・熊沢蕃山』（中公バックス日本の名著）

●今日のポイント

・三教一致・・・世界四大宗教の共通項は「大宇宙や神のような偉大な存在への畏敬」と「すべての生物が共存しなければならない」ということが挙げられる。

・「何かに支えられて」・・・「自分を超越した何か」に自分が支えられていると信じていることができるならば、その人は自分の生きる意味も理解できる。

◇フリートークキング

・「歳月人を待たず。今の一瞬、一瞬を大事に生きることが心にかけている」

・「大いなる存在をさらに探求したい」。

■十月、第百五十四回人間学塾を開きました。大津から四名を入れて九名の参加でした。

●テキスト

『中江藤樹・熊沢蕃山』

●今日のポイント

・よい武士（社会人）は、勇気があり、武道、武芸（高い専門能力）の心掛けが深く仁愛の心から世の無事を好むが、いざ事変が起れば身を忘れて大きな働きをする。



・山崎弁栄師は、われらはすべて大宇宙の分身であり、肉体の死とともに心は大宇宙のもとへ帰り、同胞とともに極楽の生となると言われている。

◇フリートークキング

・「本（もと）」と枝葉の本とは本業を頑張ることだと理解した」

・「私は先月アメリカへ行った時に、ホームステイ先で藤樹紙芝居「馬方又左衛門」を英語で説明した。藤樹思想を世界に広めようとする思いでやった」

■十一月、第百五十五回人間学塾を開きました。京都から一名、大津から一名を入れて六名が参加。

●テキスト

『中江藤樹・熊沢蕃山』

●今日のポイント

・内典と外典・・・形色のあるもの（二元絶対の世界、目に見えるもの）はみな無（一元絶対の世界、大宇宙）から生じるので、有・無はもともと二つのものではない。仏教でも、もとは有・無を二つのものとしていない。中庸の説明も行った。先天の図の説明を田口氏の資料も使って行った

◇フリートークキング

・「蕃山は幕府に対して反発するだけでなく、評価すべきは評価していたことが分かった」

・「今は宗教心がないが、開眼したら幸せに死ねると思った」

■十二月、第百五十八回人間学塾を開きました。京都から一名、大津から二名を入れて八名が参加。

●テキスト

『中江藤樹・熊沢蕃山』

●今日のポイント

・世の人がこぞって誉める人がいる。この人の人柄は十のうち八は善い。二も悪いのではなくこの人の疵（きず）である。この疵があるために人々が誉めるのだ。

・徳とは、自己の最善を他者に尽くしきること。徳を積みめば、運が強くなり、人生が豊かになる。

◇フリートークキング

・「親しい人が亡くなった。当たり前に朝が来るのではない。今、自分が生かされていることに感謝し、一日一日を大切に生きたい」等の意見をいただきました。ありがとうございます。

人間学に関心のある方は是非お越しください。無料です！

藤樹人間学塾 今後の予定

二月一日（土）、三月一日（土）、

四月五日（土）

■時間（原則） 十五時～十七時

■場所（原則） 安曇川公民館

中江藤樹・心のセミナーから

『本気になれば人生が変わる』

～想像を超える未知～

株式会社 morich 代表取締役
ALL Round erAgent

森本 千賀子さん

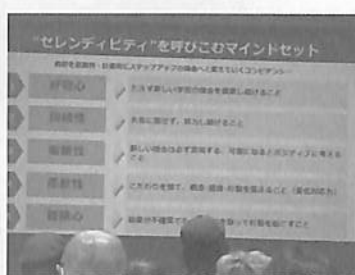
【前号に続いて後半です。】



私が五十三年間、こたわってきたことは、NOと言わないということです。例えば、「藤樹会のこのセミナーに出てください」と依頼されたり、誘われたりした時、スケジュールが合わないなど、私より適任の方がおられるなどと断ることは簡単ですが、そんな場合に私は代替案を出すなどどうやったらできるかを考えるようにしてきました。

「計画的偶発性理論」というアメリカのスタンフォード大学の教授、克蘭ボルツ先生の理論があります。簡単に言うと人生の約8割は自分が予想もしなかった偶然により決定されるということです。私の場合、たまたま視ていたスチュワードス物語が大学選別に、スクールウォーが大学時代ラグビー部のマネージャーに、そして現在させていただいているラグビーフットボール協会の理事に繋がっています。偶然出

会った人が、結婚相手になり、親友になることもあります。たまたま読んだ本が職業選別に影響することもあります。そういう偶然が人生の8割に影響しているということです。次男が石垣島にいくことになったのも、たまたま友達に誘われて「耕せにつぼん」の代表のセミナーに行ったことがきっかけです。「計画的偶発性理論」では、serendipity（掘り出し物を偶然見つける能力）が大切で、5つあります。



一つ目は好奇心です。絶えず新しい学習の機会を探し続けるということです。皆さんはものすごい量の情報を浴びています。一年間

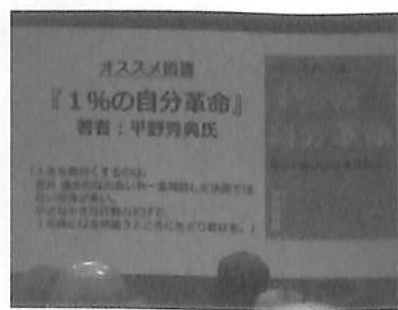
にその三割が時代遅れになり常に新しい情報をインプットし続けないと5年先には15%しか使えなくなると言われています。リクルート時代に、ユニクロの柳井社長から「カバンの中に何が入っている？」と聞かれ、「財布とハンカチと…」と答えたら「本は入っていないか。書籍」と向き合わないビジネスパーソンはトレーニングしないアスリートと一緒や」と言われました。それから毎日十分でも十五分でも読書を始めま

した。そして「アウトプットもしろ。するとスペースができ、また新しいインプットができる。繰り返すことが大事だ」と言われました。今はYoutubeとかTikTokとかTwitter(現X)といったものがあり発信するものもそんなに難しくはなくなりました。

二つ目が持続性です。継続は力なりとか言われます。能の作家・演出家であった世阿弥が、『守破離』という言葉を残しています。山の頂上にいきなり行くことは難しく、階段を一段ずつ登るようにしなければならぬという意味です。逆に言う階段を一段ずつ登って行けば必ず山の頂上に行けるということです。私は「学びのノンステップ（学ぶことを習慣にしましょう）」と言っています。たとえば、藤樹さんの教えを身に付けたいとします。最初はよくわからない、でも毎日学びを続けると頭でわかるようになります、さらに続けると意識すれば藤樹さんの言っている行動ができるようになります、もつと続けていくと意識しなくても行動できる、習慣になります。学びを習慣にするには、毎日学び続けることです。平野秀典さんの「一パーセントの自分革命」という本に「小さな行動力で一年後にすごいところにとどろける」と書かれています。計算すると昨日より今1%努力をしたら、半年後には七倍一年後には三十

七倍の所にたどり着けることになると思います。私も出させてもらったプロフェッショナルという番組で、市川海老蔵さんは、プロフェッショナルとは「昨日の自分を超越することを継続する人だ」と言っています。

三つ目が樂觀性です。ポジティブに考えることです。これは私が26歳の時にあるセミナーに出てから続けてきたことです。Affirmation（自分に宣言する）ことです。単語帳でもノートでもいいので、なりたいたいと思う自分を、例えば「私はいつも幸せな気持ちだ」、「私はすべてうまくいく」、「私はみんなから信頼されている」、「私は素敵な人生を過ごしている」のように具体的に書いて、見るところに貼る、言葉にして耳で聞くようにすると脳の奥の脳幹という無意識に関わる所に叩き込むことになり、意識せずにそう思えるようになります。脳をすり替えるということです。あることを「ピンチだ」と思う人もいれば、「チャンスだ」と思う人もいます。どうせなら、チャンスだと思える方が心は健全です。そう思えるように脳を、思考をすり



替える、だれにでもできます。私は二十年かかってそうになりました。次男が引きこもったとき、心の病気になったり、笑顔が出せなくなることはありませんでした。それは「何とかなる。絶対、光がやってくる。こうなったことには何か意味がある。」と思えたので二年間元気に過ごせたのだと思っています。

四つ目が柔軟性です。こだわり過ぎないということです。今求められているスキルを一つ挙げるとすると「変化に対応できるスキル（変化対応力）」で、これを高めるためには自分にとっての三つ目の居場所を持つことです。例えば一つ目は職場、二つ目は家族や友達です。三つ目は高島藤樹会などの学ぶ所、ボランティアや趣味の集まりなど普段とは違う価値観や背景を持つ人と会える場所です。そこでは人脈づくりができますが、実行している人は十人に一人です。これには流儀があります。その中の2つだけを紹介します。一つは会いたい人リストを作り発信することです。統計学的に六人を介すれば、今はSNSがあり2・5人を介すれば会えると言われています。その際、前向きな人に会ってください。前向きな人からは幸せオーラが出ていて横にいてだけで15%伝わるということです。講演やセミナーなどは、そういう人の横に座るようにしてください。もう1つは、自分の応

援団を作ることです。まず自分が相手の応援団になると、相手も必ず応援団になってくれます。

五つ目は冒険心です。未来は予測が付きません。そのことで不安になっても、憂いてもしかたがないので今を大事にしてほしいということです。appleの創業者のステイブ・ジョブスが「connect the dots」と言っています。今の点は過去の点と繋がり未来とも繋がっている、今最善を尽くせば必ず未来が開けるということです。私は迷ったらやってみます。やらないで後悔するより、やった経験が大事にしたいからです。私が大好きな言葉に、禅の言葉で「我逢人」というのがあります。人との出会いが我が人生、人との繋がりの中に成長があるということです。人との縁を大事にして恩を忘れなければ、運が付いてくると感じています。最後に私の大事にしていることを一つだけ言います。それは「夢中は努力に勝る」ということです。まず、夢中になれること、自分が幸せだなあと思うものを知っておく、そのために今日からぜひやっていただきたいことがあります。寝る前の十五分の流儀です。私は一日二十四時間の1パーセントの投資と呼んでいます。一日の反省や後悔をしながら眠る方がすごく多いんですが、それは別にしていいただき、嬉しかったこと、感謝や感動といった心がポジティブ

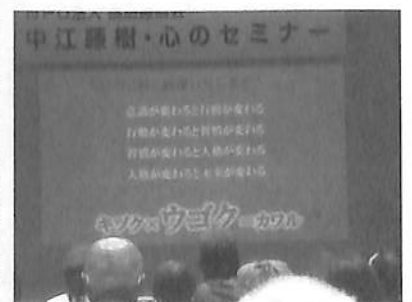
になったことを思い出しながら眠りについてほしいんです。そうすると寝ている間に、幸せホルモンと言われているテロトニン、オキシトシン、エンドルフィン、ドーパミンの分泌が3割増加し幸せを感じやすくなり、最終的にはシミやしわが無くなるアンチエイジングに繋がるという統計データがあります。自信が持てるようになります。それから、笑顔です。人体は十五兆個の細胞でできていますが、笑顔はその一つ一つが健康であるための万能薬です。私はオフィスのいろんなところに鏡を置いて、どういう表情で仕事をしているかを常にチェックしています。

関連して、私が大事にしてきた思想は「For me for you」、まず自分が幸せになろうということです。よく社会に貢献したいと言われますが、自分が幸せじゃないのに他人を幸せにするのは不自然です。それでまず自分が幸せであるためには心身ともに健康の状態を保つことです。とにかく自分がやりたいことを後悔がないようにしてください。その時に他人と比べると自分にはこれが足りないなどすごく嫌な気持ちになるので、自分の軸を持つことです。「人は変われます」どんな人でも絶対に変われます。私がお話ししてきたことをぜひ実践してみたいです。年齢に関係なく思い立ったら吉日、never to late いろんなこと

も遅すぎることはないんです。70代から毎日の散歩からはじめて結果的にフルマラソンをされている知り合いの女性がいます。自分の人生を正解にできるのは自分しかないということです。

マザーテレサさんの言葉「意識が変わると行動が変わる。行動が変わると習慣が変わる。」で締めくくりたいと思います。八割の方が意識を変えられるのですが、行動を変えられる方は10・1%しかいないんです。行動が変わると、それが習慣になり、自分の性格も変わって結果的に実は未来も変わったりするんです。今日は皆さんにたくさんのことを言わせていただきましたが、その中の一つだけでもいいので、やってみようということがあったら、ちよつと動いてみていただきたいなあというふうに思っています。そうすれば必ず自分が変わり、かつ周りも変えることができると思っています。

「習慣が変わると人格が変わる。人格が変わると未来が変わる。」
ありがとうございます。



経営理念のご紹介

安曇川町にお世話になり27年

ニッケイ工業株式会社

相談役 森田 光雄氏

弊社は昭和41年、京都市山科区にて「林工業株式会社」として創業の「ポリエチレンフィルム」の製造メーカーにて創業59年を迎えております。ポリエチレンフィルムは最も汎用的な包装材料・産業資材として使用されており、身近な商品では「レジ袋」「ごみ袋」「食品包装分野」等があり、国内では約50万tが生産され、弊社はその約1.2%の製造を担っております。

平成11年、安曇川町に本社工場を移転、27年目を迎えます。日本の石油化学産業は昭和30年代半ばに勃興、石油化学メーカー及び樹脂加工メーカーが乱立、過当競争の経済環境下で「林工業株式会社」は出光石油化学(株)の側面援助の基に創業いたしました。経営陣の「放漫経営」及び「過当競争」にて赤字経営が慢性化し、昭和62年に倒産を回避すべく出光石油化学(株)の子会社として再出発いたしました。大企業の傘下となった当社は飛躍とは裏腹に欠損経営と併せて「不祥事故」が頻発、平成6年6月小生が第7代目の代表取締役として出光より出向いたしました。経営再建を目指し、従業員と一体となつて経営分析の結果「外注加工先の集約」「物流体制の再構築」「不採算分野からの撤退」等を推進、平成10年度には「黒字転換」の目的が実現いたしました。黒字化の目処を得た為、親会社の出光へ「設備投資資金の援助」

を要請いたしました結果、折からのバブル崩壊に伴い金融界では「貸し剥し、貸し渋り」が蔓延、資本金10億円の出光興産(株)は二兆五千億円の有利子負債を抱え、銀行から返済を迫られ、全国の自社ビル・社宅等の売却に奔走、コア事業でもない弊社に対し「会社存亡の危機に投資など論外!」「会社清算命令」が下されました。私は指示に従い「会社清算」を推進し、出光興産へ戻ればよかつた訳ですが、「従業員の生活」「外注協力会社の方々の生活」お得意様への供給責任」等悩みに悩み、眠れぬ日々を過ごしました。「何とか事業を継続し、従業員・外注協力工場の方々の生活を守りたい!」との想いで私が当社に出向前に勤務してまいりました出光/本社時代に尊敬しておりました後藤義昭氏(現弊社会長)に相談の結果、「会社としては援助できないが、森田君夫妻が命を懸けて経営するならば銀行保証をしてあげよう!私の保証があれば数億円の融資は受けられる!その資金で事業承継と安曇川での新工場建設をしよう!」とのことで平成10年10月、私は(株)出光興産を退職(当時54歳)、商号を「ニッケイ工業株式会社」へ変更、平成11年5月本社工場を竣工、平成14年5月新加工センター(印刷・製袋外注先)竣工、今日を迎えております。

当地の魅力

当地に移転し地域の皆様とお話しする機会を度々持たせていただきましたと、再三質問を受けることは「何でニッケイさんは安曇川に来たんですか?」でした。私が何を以てそのような質問をするんですか?と問いますと、次の

意味でした。

「交通が不便でしょう!」「雪がたくさん降るでしょう!」「庶民は閉鎖的でしょう!」等でした。当該質問に対し、度々叱責したことを思い出します。

・当地は日本の隣に位置づけられており午後六時までに出荷すれば翌日には大分県、宮城県まで翌日配達圏にありオールジャパンの観点から見れば製造業にとつて素晴らしい立地ですよ!大阪梅田まで新快速電車で約70分、毎日梅田のデパートに買い物に行くのなら不便かもしれないが通常生活では何ら問題ないでしょう!

・積雪も平均30cm程度でしょう!秋田、山形の豪雪地域から見れば比較にならないレベルの積雪ですよ、融雪設備も整っており何ら不自由したことはないです。

・社員の方々は勤勉な方が多いですし、基本的に真面目で非常に生産性が高いです。

・比良山系の伏流水が豊富にて工場内の空調に活用させて戴いております。真夏の室温は35℃以下に保たれており快適な職場環境が整備されております。製造業にとりまして「水資源」が豊富なことは最大の財産です。併せて土地価格は安価ですし、山海の幸は豊富にて地酒も極めて美味にて素晴らしい土地に移転させて戴いたことに感謝するとともに当地の素晴らしさを話しました。古くから当地で生活されておられる方々は当地の魅力を理解されておらず、日頃の感謝の念で叱った次第です。私は会社の片隅に自宅を構えており、ベランダで歯磨きをしておりますと通りかかった学生が「おはようございます!」と挨拶をしてくれます。ま

た学校帰りの子どもたちは視線が合いますと「ただいま!」と挨拶をしてくれます。都会生活では味わえない心の温かさを感じさせて戴いております。

経営理念

廃業に直面した弊社ですが、我が社の基本は「あたりまえのことを、当たりまえに実行」することに尽きます。

極めてわかりやすい言葉ではありますが中々難しいことと思ひます。

言い換えますと「正しいと思つたことを正しく実行」することと思ひます。「当たりまえのことを、あたりまえに実行」する社風を社員の方々と共有し、

絶えず努力を積み重ね社会に貢献、「持続可能な社会」を願っております。「社風」が素晴らしければ、素晴らしい社員が育ちます。

お蔭さまで27年前の出光興産(株)より事業承継し、京都より当地に移転して以来、「リーマンショック」「コロナ禍パンデミック」等の不況下を含め月次決算で一度も欠損経営に陥っていないことを誇りとし、地域社会の皆さま及び社員・家族の皆さまに感謝し、ご紹介とさせて頂き戴きます。

追記 筆者 森田光雄は令和六年七月、満八十歳の齢を迎え代表取締役を退任。長男へ事業承継を行い、相談役に就任しております。



藤樹先生

昔々今

令和六年度「儒式祭典」開催

藤樹書院（公益財団法人）主催の「儒式祭典」が、九月二十五日に藤樹書院において開催されました。

渕田豊朗理事長の開会のことばに続き、儒式の祭典が厳かに執り行われました。「賽主」、「助事」、「助奠」（二名）、「進監」の祭官は、袴姿の地域の方々です。

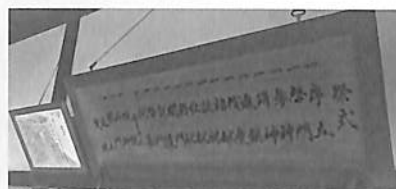
藤樹書院のHPにある儒式祭典の説明では、

『（わが国では珍しい）文公家礼（中国の宋の時代に書かれた儒家の礼儀作法の本）により執り行われていきます。』

昭和五十五年（一九八〇年）、市町村合併前の安曇川町から無形民俗文化財に指定されました。

藤樹先生の命日は明治六年一月一日から採用された太陽暦では慶安元年（一六四八年）十月十一日です。この日は太陰暦（旧暦）の慶安元年八月二十五日に当たるので、儒式祭典は、太陽暦変更後も八月二十五日に行われていました。暦の変更や学校行事の一環として児童が参拝でき

るようにとの配慮から明治十一年（一八七八年）から、ひと月遅れの九月二十五日に執り行われるようになりまし。以後、九月の例祭として上小川村人により厳かに執り行われてきています。



それまでの祭典の形式は口頭伝承の形で受け継がれてきましたが、明治三十年（一八九七年）の二五〇年祭の時に京都の明倫舎と出雲路與通氏の助言指導を受け、現行の形に定まりました」と記されています。

祭式順序の通り行われました。

序立（隣室で祭官が手を清める）

啓門（助奠が神前の張を上げる）

参神（賽主が拝礼を四度する）

降神（賽主が焼香し拝礼を二度する）

進（神）饌（助奠が進監から十種の山海の幸を受け取り運び、賽主が神前に供える）



脩食（賽主がご飯に箸を立て、藤樹先生の霊に食を勧める）

初献（賽主が酒と肴を勧める）

読祝（賽主が祝文を読む）

亜献（賽主が再び酒等を勧める）

終献（賽主がもう一度の酒等を勧める）

闔門（助奠が神前の張を降ろす）

（説遺）（賽主が『藤樹規』を読む）

啓門（序奠が神前の張を上げる）

献茶（賽主が茶と菓子をお勧め、祭官四人が左に並び、参加者全員が焼香、拝礼する）

撤饌（山海の幸を神饌と逆の順序で下げ、隣室の進監に渡す）

辞神（賽主が拝礼を四度する）

闔門（助奠が神前の張を降ろす）



送主焚祝（祝文を隣室の火鉢で燃やし、礼をして終了する）

藤樹規

大学の道は明德を明かにするに在り、民に親しむに在り、至善に止まるに在り、天命を畏れ、徳性を尊ぶ

右は持敬の要、進脩の本なり

博く之を学び、審かに之を問ひ、慎んで之を思ひ、明かに之を辨じ篤く之を行ふ

右は進脩の序

言忠信、行篤敬、忿を懲し欲を塞ぎ、善に遷り過を改む、

右は身を脩むるの要

其の義を正しうして其の利を謀らず、其の道を明かにして其の功を計らず

右は事に處するの要

己の欲せざる所は人に施すること勿れ、行得ざる有らば反つて諸を己に求む

右は物に接するの要

大洲藤樹会との交流

さる九月二十八日(土)、二十九日(日)、大洲市より大洲藤樹会の久保田会長をはじめ、六名の皆さんが高島市を訪れ、藤樹書院、藤樹神社、玉林寺などを見学されました。夜には高島藤樹会と懇親会をもち、お互いの取組や近況などを交流しました。



大洲藤樹会
久保田会長のあいさつ



大洲高校の校歌を全員で歌われる
大洲藤樹会のみなさん

藤樹神社 例大祭より

さる九月二十五日、藤樹神社の例大祭が執り行われました。

藤樹神社は、大正十一年(一九二二年)に中江藤樹を敬慕する人々の協力によって建てられました。

そこには、新一万円札の肖像にもなっている渋沢栄一との繋がりを表した説明もあります。

陽明学に親しんでいた渋沢栄一は「近江聖人」中江藤樹を「穩健で実行を貴ぶ」人物と評し大正十年一月に藤樹神社創立協賛会理事長の佐野真次郎から援助を求められた際には同会顧問就任を快諾、自ら寄付をするだけでなく、財界知己に対して「目下世道人身退廃其のきわみに達せんとする際、極めて有益」な事業であるとして寄付を呼びかけました。また資金調達のためには宣伝が必要であると指摘、講演会開催を斡旋するなど同会の活動を支援したという事です。

長く続く例祭は、厳かに執り行われ、参加させていただいた私には心洗われる時間となりました。



賛助会員一覧

★既加入の賛助会員一覧

ご協力ありがとうございます。

- 伊丹製薬 株式会社
- ウエストレイクホテル可以登録
- 税理士法人 淡海総合会計
- (元) 大津公証人会 白髭博文
- 大溝工業 株式会社
- 株式会社 大山建設
- 岡本アルミ建材 株式会社
- 川島酒造 株式会社
- 川島織布 株式会社
- 有限会社 クリエイト・マエダ
- 株式会社 Grow's
- 株式会社 桑原組
- 有限会社 宏和商事
- 税理士法人 小畑会計事務所
- 株式会社 才川食品店
- 佐治タイル 株式会社
- 株式会社 澤村
- 株式会社 シグマックス
- 清水安三記念館
- 有限会社 白浜荘
- 新旭電子工業 株式会社
- 杉橋建設 株式会社
- ソエダ 株式会社
- 高島鋳建 株式会社
- 田中マネジメント事務所

- 樽野工業 株式会社
- 株式会社 TADコーポレーション
- 鉄屋商事 株式会社
- 寺子屋まなごし童心塾
- 有限会社 天平フーズ
- 株式会社 戸井薬局
- とも栄 藤樹街道本店
- 株式会社 ナカサク
- ナカシヨウ 株式会社
- 株式会社 中田運送
- 中村印刷 株式会社
- 株式会社 中村測量設計
- ニツケイ工業 株式会社
- 八田建設 株式会社
- 有限会社 馬場塗装
- 戸次会計事務所
- 株式会社 ホリゾン
- 有限会社 丸三旅館
- 株式会社 ミツホ工業
- 株式会社 森下工業
- 株式会社 ヨシダヤ

(五十音順)

★新規賛助会員募集中!

前号に引き続き、新規にご加入いただける賛助会員(企業様)を募集しています。

ご紹介していただける企業様がありましたら、ぜひご紹介をお願いいたします。